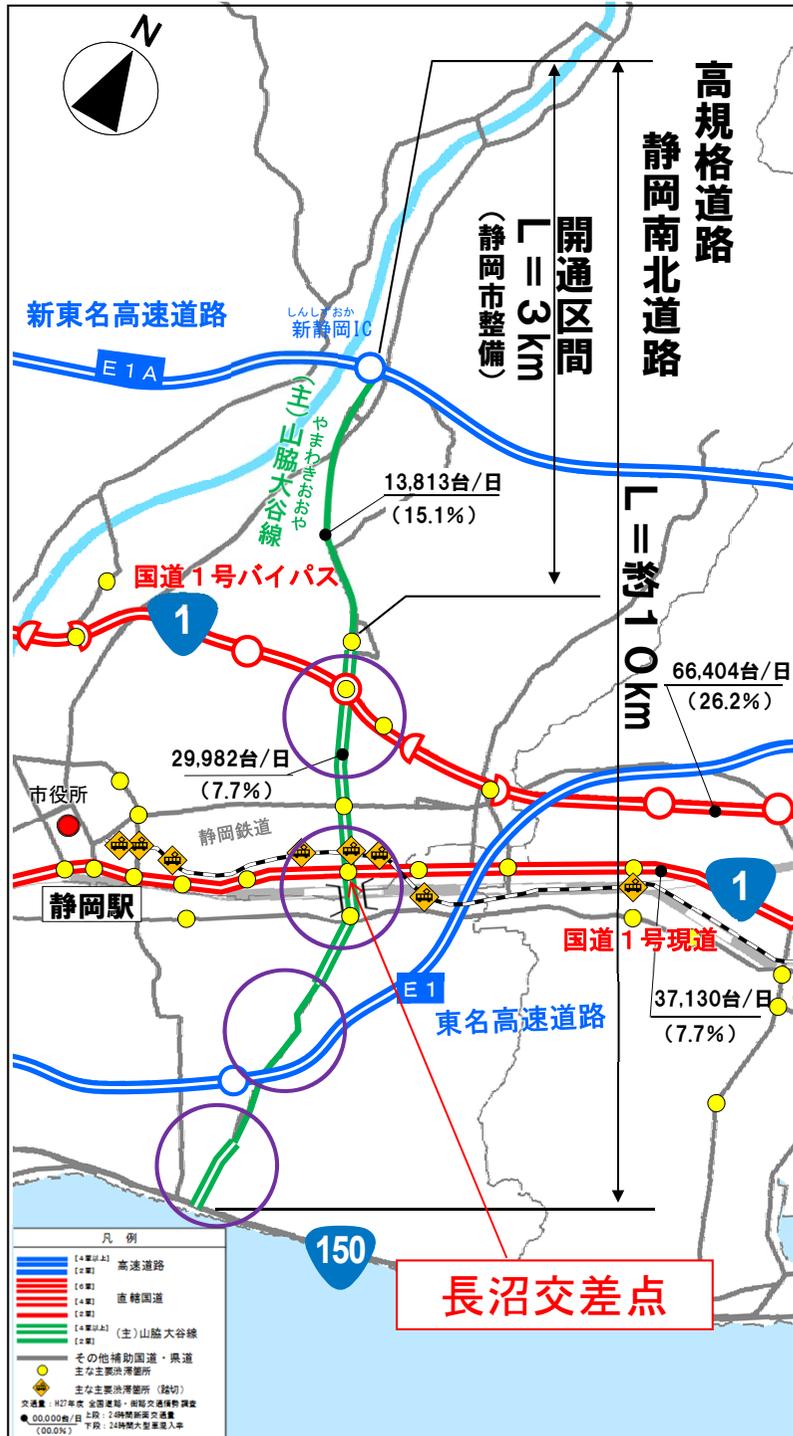


国道1号長沼交差点の対策の方向性



＜対策の方向性＞

- 南北軸である(主)山脇大谷線について、静岡鉄道踏切と長沼交差点を跨ぐ立体化事業と長沼大橋の橋梁架替事業の一体的な実施を対策(案)とする。
 - ・ 信号待ちによる渋滞が激しく、市街化が進む長沼交差点は、渋滞対策として立体化が有効。
 - ・ 東西軸の国道1号の立体化では、静岡鉄道の踏切待ちによる南北軸の渋滞が解消されないため、南北軸の(主)山脇大谷線の立体化が有効。(これにより、東西軸の国道1号の渋滞も解消)
 - ・ 老朽化が進む長沼大橋については、鉄道軌道が近接し、補強工事が困難なため、架替が必要。
 - ・ 立体化事業と橋梁架替事業の一体的な実施により、全体として効率的に両事業を実施。
- 国・静岡県・静岡市が引き続き連携し、地域の合意形成を図りながら、対策(案)の詳細な検討を進める。
 - ・ 沿道物件や現道交通への影響も想定されるため、地域の合意形成を図ることが必要。
 - ・ 事業中に現道交通にできるだけ影響を与えないよう、詳細ルートや施工方法の検討が必要。
 - ・ 立体化と橋梁架替事業を組み合わせせた整備手法や役割分担の検討が必要。

